

# 社会情報学部生の恋愛・結婚・家族観

— 1997年度学生意識調査の結果から —

年本 逸人・水谷 悟志・井上 芳保

1997年度「社会情報調査論」(井上担当)受講生を対象として「現代の学生の恋愛・結婚・家族観についての意識調査」を実施した。本稿はその結果得られたデータについての暫定的報告である。分析と考察の一部について紹介する。

最初に全質問項目の単純集計結果を以下に1.として載せる。たくさんの項目についてデータを得ることができたものの、現時点では調査結果に基づく分析と考察を十分に展開できたとは言い難い。ここでは2.として「性別役割分業」など女性差別に関わる質問項目を、3.として「恋人と結婚の相手選び」に関する質問項目を取り上げる。また次に4.として女性差別に関わる質問を中心とする質問群について数量化理論Ⅲ類による解析を試みた結果についての考察を記す。

その後5.として若干の補論を記す。これは恋愛・結婚・家族観に関わるいくつかの分析枠組を示し、それらとの関連でいくつかの質問項目について簡単に言及するものである。学生諸君が読んでくれることを想定しつつ、今回の調査結果に関して今後、さらに考察を進めていくためのヒントのような文章を連ねておいた。このテーマについて研究してみたいという人への一つの指針となれば幸いである。

なお、今回の調査に協力していただいた本学部生諸君には改めて感謝申し上げる次第である。データ解析にあたっては、表計算ソフト EXCEL を使用した。その際に内田治『すぐわかる EXCEL による統計解析』と杉山和雄・井上勝雄(編)『EXCEL による調査分析入門』を参照した。特に後者に掲載してあるプログラムは使わせていただいた。

目次	の意味
1. 単純集計結果	3. 恋人と結婚相手選びについての考察
2. 女性差別に関する質問群についての考察	3-1 恋人に対して望むもの
2-1 性別役割分業	3-2 相手が恋人に望むと思うもの
2-2 女性差別の存在	3-3 結婚相手に対して望むもの
2-3 女性の就職と家事労働の分担	3-4 相手が結婚相手に望むと思うもの
2-4 現在の性別への満足	3-5 結果の考察
2-5 小括：性別役割分業の否定の二つ	3-6 小括：恋愛と結婚の分離
	4. 数量化理論Ⅲ類による分析
	4-1 数量化理論Ⅲ類について

- |     |                        |               |                       |
|-----|------------------------|---------------|-----------------------|
| 4-2 | 女性差別に関わる質問群の選択         | 3. アパート・マンション | 80 (41.5%)            |
| 4-3 | 分析結果と二つの軸の解釈           | 4. 学生寮        | 7 (3.6%)              |
| 4-4 | 小括：女性差別意識の内実           | 5. その他 ( )    | 1 (0.5%)              |
| 5.  | 補論：性愛と結婚の現代的位相の分析にあたって | F 4           | あなたの出身高校は次のどれでしたか？    |
| 5-1 | 日常的な生活実感を大切にすること       | 1. 共学校        | 175 (90.7%)           |
| 5-2 | 「性のプロトコル」の歴史性という視点     | 2. 男子校        | 10 (5.2%)             |
| 5-3 | 美少女ソフトにみる性愛の貧困         | 3. 女子校        | 7 (3.6%)              |
| 5-4 | 同性愛への偏見の意味するもの         | 4. その他 ( )    | 1 (0.5%)              |
| 5-5 | 終身雇用制と終身結婚制のゆらぎ        | F 5           | あなたの出身高校の場所は次のどこでしたか？ |

### 1. 単純集計結果

この授業「社会情報調査論」は本学部2年生必修である。但し、再履修の3年生以上も若干数含まれている。調査を実施したのは7月15日。有効回答サンプル数は193件。これは今年度のこの授業の受講生273人の70.1%にあたる。F1にみられるように男女比は約8：2であるが、これは本学部全体の男女比とほぼ同じである。すなわち当日の授業欠席者からデータを得ていないという制約があるものの、ほぼ片寄りなく本学部生を代表するサンプルが得られたと考えている。

- |     |                    |                        |                                     |
|-----|--------------------|------------------------|-------------------------------------|
| F 1 | あなたの性別はどちらですか？     | 1. 北海道内（札幌圏）           | 97 (50.3%)                          |
|     | 1. 男性              | 2. 北海道内（札幌圏以外）         | 49 (25.4%)                          |
|     | 2. 女性              | 3. 北海道外                | 47 (24.4%)                          |
| F 2 | あなたの現在の年齢は次のどれですか？ | F 6                    | あなたの所属サークルは次のどれですか？                 |
|     | 1. 19歳             | 1. 体育系                 | 52 (26.9%)                          |
|     | 2. 20歳             | 2. 文化系                 | 33 (17.1%)                          |
|     | 3. 21歳             | 3. 体育・文化系の両方に所属        | 3 (1.6%)                            |
|     | 4. 22歳以上           | 4. 無所属                 | 105 (54.4%)                         |
| F 3 | あなたの住まいは次のどれですか？   | F 7                    | あなたは講義にはどれくらい出席していますか。              |
|     | 1. 自宅              | 1. 9割以上                | 52 (26.9%)                          |
|     | 2. 下宿              | 2. 7～9割                | 105 (54.4%)                         |
|     |                    | 3. 5～7割                | 28 (14.5%)                          |
|     |                    | 4. 5割以下                | 8 (4.1%)                            |
|     |                    | F 8                    | あなたは普段、車を運転しますか？<br>また、免許証をもっていますか？ |
|     |                    | 1. よく運転する              | 57 (29.5%)                          |
|     |                    | 2. 免許証はもっているが、あまり運転しない | 46 (23.8%)                          |
|     |                    | 3. 現在、免許証取得中           | 27 (14.0%)                          |

4. 免許証をもっていない  
い 62 (32.1%)

F 9 あなたの家庭の主たる家計支持者の職業は次のどれですか？

- |  |            |
|--|------------|
| 1. 公務員（教員以外）                           | 35 (18.1%) |
| 2. 教員（幼・小・中・高・大学・各種学校等）                | 12 (6.2%)  |
| 3. 民間企業社員（自営以外、管理職含む）                  | 96 (49.7%) |
| 4. 団体・法人職員（教員以外）                       | 6 (3.1%)   |
| 5. 専門技術職（医師・薬剤師・弁護士等商工農林水産サービス業以外の自営業） | 1 (0.5%)   |
| 6. 自営の商・工業・サービス業                       | 20 (10.4%) |
| 7. 自営の土木・建築業                           | 5 (2.6%)   |
| 8. 自営の農・林・水産業                          | 8 (4.1%)   |
| 9. 臨時職業（パート等）                          | 3 (1.6%)   |
| 10. 無職                                 | 2 (1.0%)   |
| 11. その他（ ）                             | 4 (2.1%)   |

F 10 あなたの家庭の年収（税込み）はおよそどれくらいですか？

- |                |            |
|----------------|------------|
| 1. 300万円未満     | 8 (4.1%)   |
| 2. 300～400万円未満 | 21 (10.9%) |
| 3. 400～500万円未満 | 18 (9.3%)  |
| 4. 500～600万円未満 | 31 (16.1%) |
| 5. 600～700万円未満 | 30 (15.5%) |
| 6. 700～800万円未満 | 23 (11.9%) |
| 7. 800～900万円未満 | 15 (7.8%)  |
| 8. 900万円以上     | 29 (15.0%) |

- Q 1 あなたは、全体的にみて今の生活に満足していますか？
- |                   |            |                            |            |
|-------------------|------------|----------------------------|------------|
| 1. 満足している         | 30 (15.5%) | 5. 子どもができてても職業をずっと続けるほうがよい | 36 (18.8%) |
| 2. どちらかといえば満足している | 88 (45.6%) | 6. その他                     | 13 (6.8%)  |
| 3. どちらかといえば不満である  | 62 (32.1%) | 7. わからない                   | 34 (17.7%) |
| 4. 不満である          | 13 (6.7%)  |                            |            |
- Q 2 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方をどう思いますか？
- |                  |            |  |            |
|------------------|------------|--|------------|
| 1. 賛成である         | 14 (7.3%)  | Q 5 あなたは夫婦間での家事の分担は、どのようにするのがよいと思いますか？ |            |
| 2. どちらかといえば賛成である | 64 (33.2%) | 1. 妻中心で行うべきである                         | 12 (6.2%)  |
| 3. どちらかといえば反対である | 43 (22.3%) | 2. どちらかといえば妻中心で行うべきである                 | 62 (32.1%) |
| 4. 反対である         | 24 (12.4%) | 3. 夫婦五分五分に行うべきである                      | 39 (20.2%) |
| 5. わからない         | 48 (24.9%) | 4. どちらかといえば夫中心で行うべきである                 | 2 (1.0%)   |
|                  |            | 5. 夫中心で行うべきである                         | 0 (0%)     |
|                  |            | 6. 夫婦それぞれの所得に応じて分担すべきである               | 5 (2.6%)   |
|                  |            | 7. 夫婦それぞれの労働時間に応じて分担すべきである             | 69 (35.8%) |
|                  |            | 8. その他                                 | 4 (2.1%)   |
- Q 3 あなたは今の日本社会において、女性に対する差別があると思いますか？
- |               |            |                                    |            |
|---------------|------------|------------------------------------|------------|
| 1. とても多くあると思う | 16 (8.3%)  | Q 6 あなたは全体的にみて、男性と女性のどちらが得だと思いますか？ |            |
| 2. かなりあると思う   | 78 (40.4%) | 1. 男性                              | 59 (30.6%) |
| 3. 多少はあると思う   | 93 (48.2%) | 2. 女性                              | 45 (23.3%) |
| 4. 全くないと思う    | 2 (1.0%)   | 3. どちらともいえない                       | 89 (46.1%) |
| 5. わからない      | 4 (2.1%)   |                                    |            |
- Q 4 あなたは女性が職業をもつことに対してどう思いますか？
- |                            |            |                            |             |
|----------------------------|------------|----------------------------|-------------|
| 1. 職業をもたないほうがよい            | 3 (1.6%)   | Q 7 あなたはいまの自分の性別に満足していますか？ |             |
| 2. 結婚するまでは職業をもつほうがよい       | 8 (4.2%)   | 1. 満足している                  | 151 (78.2%) |
| 3. 子どもができるまでは職業をもつほうがよい    | 38 (19.8%) | 2. 満足していない                 | 13 (6.7%)   |
| 4. 子どもが大きくなったら再び職業をもつほうがよい | 60 (31.3%) | 3. わからない                   | 29 (15.0%)  |
- Q 8 あなたはもし生まれ変われるなら男性、女性のどちらになりたいですか？

- |            |            |
|------------|------------|
| 1. 男性      | 86 (44.6%) |
| 2. 女性      | 40 (20.7%) |
| 3. どちらでもよい | 59 (30.6%) |
| 4. わからない   | 8 (4.1%)   |

- E 愛情を込めて育てているペット
- |   |             |
|---|-------------|
| 1 | 127 (65.8%) |
| 2 | 48 (24.9%)  |
| 3 | 6 (3.1%)    |
| 4 | 11 (5.7%)   |

Q9 あなたは、次のA～Dの意見についてどう思いますか？下の1～4から選んでください。

- |                     |
|---------------------|
| 1. 家族だと思う           |
| 2. どちらかというと家族だと思う   |
| 3. どちらかというと家族だと思わない |
| 4. 家族だと思わない         |

A 結婚したときから別々に住居をもっているがよく行き来する夫婦

- |   |            |
|---|------------|
| 1 | 36 (18.7%) |
| 2 | 56 (29.0%) |
| 3 | 54 (28.0%) |
| 4 | 46 (23.8%) |

B 単身赴任して、ほとんど行き来しない夫婦

- |   |            |
|---|------------|
| 1 | 40 (20.7%) |
| 2 | 68 (35.2%) |
| 3 | 56 (29.0%) |
| 4 | 28 (14.5%) |

C 一緒に生活しているけど、全く愛情が感じられなくなった夫婦

- |   |            |
|---|------------|
| 1 | 18 (9.3%)  |
| 2 | 36 (18.7%) |
| 3 | 66 (34.2%) |
| 4 | 72 (37.3%) |

D 法律的には夫婦でも、嫌いになって別居している夫婦

- |   |             |
|---|-------------|
| 1 | 11 (5.7%)   |
| 2 | 19 (9.8%)   |
| 3 | 45 (23.3%)  |
| 4 | 117 (60.6%) |

Q10 あなたの理想の家族像は、次のうちどれに最も近いですか？

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 親, 子供, 孫等が同居している大家族                  | 22 (11.4%) |
| 2. 夫婦と子供のみで住んでいるが, 親の近くに住んでいる (二世帯住居含む) | 56 (29.0%) |
| 3. 夫婦と子供のみで暮らす                          | 86 (44.6%) |
| 4. 夫婦だけで子供をつくらない                        | 8 (4.1%)   |
| 5. 結婚せずに一生一人で暮らす                        | 8 (4.1%)   |
| 6. その他                                  | 3 (1.6%)   |
| 7. わからない                                | 9 (4.7%)   |

Q11 あなたは将来結婚したいと思いますか？

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. 結婚したい   | 146 (75.6%) |
| 2. 結婚したくない | 15 (7.8%)   |
| 3. わからない   | 31 (16.1%)  |

Q11-1 結婚したいと答えた方に伺います。何歳くらいで結婚したいですか？

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 20歳未満    | 1 (0.7%)   |
| 2. 20～22歳   | 0 (0%)     |
| 3. 23～25歳   | 43 (29.1%) |
| 4. 26～28歳   | 71 (48.0%) |
| 5. 29～31歳   | 13 (8.8%)  |
| 6. 32～34歳   | 2 (1.4%)   |
| 7. 35歳以上    | 0 (0%)     |
| 8. 一概には言えない | 16 (10.8%) |
| 9. わからない    | 2 (1.4%)   |

Q11-2 結婚したくないと答えた方に伺います。その理由は次のどれですか？

- |                              |           |
|------------------------------|-----------|
| 1. 他人といるとわずらわしく、誰も気にせず生きていたい | 5 (33.3%) |
| 2. 自由な時間がなくなる                | 5 (33.3%) |
| 3. 一人でも不自由を感じない              | 2 (13.3%) |
| 4. 異性との交際を一人に縛られたくない         | 2 (13.3%) |
| 5. 異性に対して不信を感じる              | 0 ( 0%)   |
| 6. その他                       | 1 ( 6.7%) |

Q12 再び全ての方に伺います。あなたは、人間にとって結婚は必要なことだと思いますか？

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 必要である  | 89 (46.1%) |
| 2. 必要ではない | 42 (21.8%) |
| 3. わからない  | 60 (31.1%) |

Q13 あなたは結婚後の名字についてどう思いますか？

- |                                    |            |
|------------------------------------|------------|
| 1. 当然、妻が名字を改めて、夫のほうの名字を名乗るべきだ      | 25 (13.0%) |
| 2. 現状では、妻が名字を改めて、夫のほうの名字を名乗ったほうがよい | 49 (25.4%) |
| 3. 夫が名字を改めて、妻のほうの名字を名乗るべきだ         | 1 ( 0.5%)  |
| 4. 夫婦は同じ名字を名乗るべきだが、どちらの名字でもよい      | 75 (38.9%) |
| 5. 夫婦別姓でよい                         | 22 (11.4%) |
| 6. その他                             | 5 ( 2.6%)  |
| 7. わからない                           | 15 ( 7.8%) |

Q14 あなたは、事実婚（法的な結婚の手続きはしないが、異性と夫婦として一緒に暮らすこと）についてどのように思っていますか？

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1. 好ましいことだと思う    | 88 (45.6%) |
| 2. 好ましいことだとは思わない | 32 (16.6%) |
| 3. わからない         | 72 (37.3%) |

Q15 あなたは、次のA～Fの意見についてどう思いますか？ 下の1～4から選んでください。

- |                 |
|-----------------|
| 1. そう思う         |
| 2. どちらかというと思う   |
| 3. どちらかというと思わない |
| 4. そう思わない       |

A 恋愛は結婚に結び付かなくては本物とはいえない

- |   |             |
|---|-------------|
| 1 | 4 ( 2.1%)   |
| 2 | 29 (15.0%)  |
| 3 | 54 (28.0%)  |
| 4 | 105 (54.4%) |

B 恋愛感情が湧かなくては、結婚できない

- |   |            |
|---|------------|
| 1 | 80 (41.5%) |
| 2 | 73 (37.8%) |
| 3 | 22 (11.4%) |
| 4 | 17 ( 8.8%) |

C 性交渉には、愛情がなくてはならない

- |   |            |
|---|------------|
| 1 | 68 (35.2%) |
| 2 | 64 (33.2%) |
| 3 | 31 (16.1%) |
| 4 | 29 (15.0%) |

D 性交渉まで行かなければ、本当の恋愛

とはいえない

1	9 ( 4.7%)
2	40 (20.7%)
3	66 (34.2%)
4	77 (39.9%)

E 結婚しない相手でも性交渉して構わない

1	78 (40.4%)
2	76 (39.4%)
3	34 (17.6%)
4	4 ( 2.1%)

F 婚前交渉はいけないことだ

1	3 ( 1.6%)
2	15 ( 7.8%)
3	47 (24.4%)
4	127 (65.8%)

Q16 あなたはホモ(男同士の性愛関係)についてどう思いますか？

1. 全く理解できない	74 (38.3%)
2. 理解できないわけではないが、違和感を覚える	86 (44.6%)
3. 全くなんの違和感はない	21 (10.9%)
4. わからない	10 ( 5.2%)

Q17 あなたはレズ(女同士の性愛関係)についてどう思いますか？

1. 全く理解できない	51 (26.4%)
2. 理解できないわけではないが、違和感を覚える	92 (47.7%)
3. 全くなんの違和感はない	32 (16.6%)
4. わからない	16 ( 8.3%)

Q18 あなたは恋人に次のようなことをどの

程度重視しますか？

とても重視する      どちらでもない      全く関係ない  
 1 …………… 2 …………… 3 …………… 4 …………… 5

a. 学歴	1	1 ( 0.5%)
	2	18 ( 9.3%)
	3	59 (30.6%)
	4	48 (24.9%)
	5	65 (33.7%)

b. 職業	1	6 ( 3.1%)
	2	43 (22.3%)
	3	62 (32.1%)
	4	39 (20.2%)
	5	41 (21.2%)

c. 経済力	1	11 ( 5.7%)
	2	29 (15.0%)
	3	73 (37.8%)
	4	42 (21.8%)
	5	36 (18.7%)

d. 人柄	1	155 (80.3%)
	2	32 (16.6%)
	3	3 ( 1.6%)
	4	0 ( 0%)
	5	1 ( 0.5%)

e. 容姿	1	52 (26.9%)
	2	85 (44.0%)
	3	46 (23.8%)
	4	7 ( 3.6%)
	5	1 ( 0.5%)

f. 続柄	1	3 ( 1.6%)
	2	8 ( 4.1%)
	3	62 (32.1%)
	4	39 (20.2%)
	5	79 (40.9%)

Q19 逆に、あなたの恋人は次のようなこと

をどの程度重視すると思いますか？					どの程度重視しますか？				
とても重視する	どちらでもない	全く関係ない			とても重視する	どちらでもない	全く関係ない		
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
a. 学歴					a. 学歴				
	1	11	( 5.7%)			1	7	( 3.6%)	
	2	40	(20.7%)			2	19	( 9.8%)	
	3	85	(44.0%)			3	65	(33.7%)	
	4	26	(13.5%)			4	42	(21.8%)	
	5	28	(14.5%)			5	58	(30.1%)	
b. 職業					b. 職業				
	1	22	(11.4%)			1	21	(10.9%)	
	2	62	(32.1%)			2	44	(22.8%)	
	3	72	(37.3%)			3	61	(31.6%)	
	4	20	(10.4%)			4	29	(15.0%)	
	5	14	( 7.3%)			5	36	(18.7%)	
c. 経済力					c. 経済力				
	1	28	(14.5%)			1	22	(11.4%)	
	2	79	(40.9%)			2	47	(24.4%)	
	3	55	(28.5%)			3	74	(38.3%)	
	4	18	( 9.3%)			4	24	(12.4%)	
	5	10	( 5.2%)			5	24	(12.4%)	
d. 人柄					d. 人柄				
	1	118	(61.1%)			1	158	(81.9%)	
	2	53	(27.5%)			2	28	(14.5%)	
	3	18	( 9.3%)			3	3	( 1.6%)	
	4	0	( 0%)			4	2	( 1.0%)	
	5	1	( 0.5%)			5	0	( 0%)	
e. 容姿					e. 容姿				
	1	49	(25.4%)			1	48	(24.9%)	
	2	82	(42.5%)			2	86	(44.6%)	
	3	53	(27.5%)			3	47	(24.4%)	
	4	3	( 1.6%)			4	9	( 4.7%)	
	5	3	( 1.6%)			5	1	( 0.5%)	
f. 続柄					f. 続柄				
	1	9	( 4.7%)			1	7	( 3.6%)	
	2	22	(11.4%)			2	22	(11.4%)	
	3	81	(42.0%)			3	74	(38.3%)	
	4	32	(16.6%)			4	35	(18.1%)	
	5	46	(23.8%)			5	53	(27.5%)	

Q20 あなたは結婚相手に次のようなことを

Q21 逆に、あなたの結婚相手は次のような



ことをどの程度重視すると思いますか？  
 とても重視する      どちらでもない      全く関係ない

1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5

a. 学歴	1	30 (15.5%)
	2	62 (32.1%)
	3	60 (31.1%)
	4	19 ( 9.8%)
	5	18 ( 9.3%)

b. 職業	1	50 (25.9%)
	2	80 (41.5%)
	3	41 (21.2%)
	4	11 ( 5.7%)
	5	7 ( 3.6%)

c. 経済力	1	64 (33.2%)
	2	81 (42.0%)
	3	30 (15.5%)
	4	11 ( 5.7%)
	5	7 ( 3.6%)

d. 人柄	1	129 (66.8%)
	2	44 (22.8%)
	3	15 ( 7.8%)
	4	1 ( 0.5%)
	5	0 ( 0%)

e. 容姿	1	40 (20.7%)
	2	84 (43.5%)
	3	60 (31.1%)
	4	4 ( 2.1%)
	5	1 ( 0.5%)

f. 続柄	1	20 (10.4%)
	2	44 (22.8%)
	3	80 (41.5%)
	4	23 (11.9%)
	5	22 (11.4%)

どう思いますか？ 下の1～4から選んでください。

1. そう思う
2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない
4. そう思わない

A 結婚後は相手以外の人と恋愛してはいけない

1	45 (23.3%)
2	94 (48.7%)
3	31 (16.1%)
4	21 (10.9%)

B 結婚後も夫婦は恋愛感情をもち続けるべきである

1	96 (49.7%)
2	69 (35.8%)
3	21 (10.9%)
4	5 ( 2.6%)

C 結婚後は夫婦以外で性交渉をもつてはならない

1	65 (33.7%)
2	79 (40.9%)
3	28 (14.5%)
4	19 ( 9.8%)

D 結婚生活には性交渉が不可欠である

1	54 (28.0%)
2	77 (39.9%)
3	40 (20.7%)
4	20 (10.4%)

Q23 あなたは大学で普段、昼食をどのように食べることが多いですか。

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 1. 一人で食べる        | 16 ( 8.3%)  |
| 2. クラスやゼミの友人と一緒に | 122 (63.2%) |

Q22 あなたは、次のA～Dの意見について

- |               |            |          |            |
|---------------|------------|----------|------------|
| 3. サークルの友人と一緒 | 21 (10.9%) | 3. 2~3人  | 58 (30.1%) |
| 4. その他の友人と一緒に | 25 (13.0%) | 4. 4~5人  | 32 (16.6%) |
| 5. 恋人と一緒に     | 7 (3.6%)   | 5. 6~7人  | 13 (6.7%)  |
|               |            | 6. 8人以上  | 8 (4.1%)   |
|               |            | 7. わからない | 5 (2.6%)   |
- Q24 あなたには、何でも打ち明けられる友人がいますか。
- |          |             |                                  |            |
|----------|-------------|----------------------------------|------------|
| 1. いる    | 128 (66.3%) | Q28 あなたはいままで、何人の相手にふられたことがありますか？ |            |
| 2. いない   | 22 (11.4%)  | 1. 0人                            | 48 (24.9%) |
| 3. わからない | 41 (21.2%)  | 2. 1人                            | 41 (21.2%) |
- Q25 ところであなたは、異性間の友情はあると思いますか？
- |          |             |          |            |
|----------|-------------|----------|------------|
| 1. あると思う | 147 (76.2%) | 3. 2~3人  | 70 (36.3%) |
| 2. ないと思う | 21 (10.9%)  | 4. 4~5人  | 12 (6.2%)  |
| 3. わからない | 23 (11.9%)  | 5. 6~7人  | 1 (0.5%)   |
|          |             | 6. 8人以上  | 4 (2.1%)   |
|          |             | 7. わからない | 11 (5.7%)  |
- Q26 あなたには現在、つきあっている恋人はいますか？
- |          |             |                                    |            |
|----------|-------------|------------------------------------|------------|
| 1. いる    | 61 (31.6%)  | Q29 逆に、あなたはいままで、何人の相手をふったことがありますか？ |            |
| 2. いない   | 124 (64.2%) | 1. 0人                              | 52 (26.9%) |
| 3. わからない | 6 (3.1%)    | 2. 1人                              | 28 (14.5%) |
|          |             | 3. 2~3人                            | 55 (28.5%) |
|          |             | 4. 4~5人                            | 20 (10.4%) |
|          |             | 5. 6~7人                            | 8 (4.1%)   |
|          |             | 6. 8人以上                            | 10 (5.2%)  |
|          |             | 7. わからない                           | 14 (7.3%)  |
- Q26-1 いると答えた方に伺います。現在の恋人と結婚したいですか？
- |            |            |  |            |
|------------|------------|--|------------|
| 1. 結婚したい   | 24 (39.3%) | Q30 あなたは、性交渉の機会を売ること(援助交際含む)についてどう思いますか？ |            |
| 2. 結婚したくない | 5 (8.2%)   | 1. かまわないと思う                              | 42 (21.8%) |
| 3. わからない   | 32 (52.5%) | 2. できることならしな<br>い方がよい                    | 75 (38.9%) |
|            |            | 3. 絶対にいけないこと<br>だ                        | 55 (28.5%) |
|            |            | 4. わからない                                 | 15 (7.8%)  |
- Q26-2 いないと答えた方に伺います。恋人がほしいですか？
- |          |            |                         |            |
|----------|------------|-------------------------|------------|
| 1. ほしい   | 72 (58.1%) | Q30-1 では、あなただったらどうしますか？ |            |
| 2. ほしくない | 9 (7.3%)   | 1. 金額によっては売る<br>( 円)    | 28 (14.5%) |
| 3. わからない | 43 (34.7%) |                         |            |
- Q27 再びすべての方に伺います。あなたはいままで、何人の相手と恋人として交際したことがありますか？
- |       |            |  |  |
|-------|------------|--|--|
| 1. 0人 | 33 (17.1%) |  |  |
| 2. 1人 | 35 (18.1%) |  |  |

2. 金額に関係なく売らない 110 (57.0%)  
 3. わからない 47 (24.4%)

7. 大学2年以上 5 (2.6%)  
 8. まだしていない 52 (26.9%)  
 9. わからない 16 (8.3%)

Q30-2 あなたの周りに、性交渉の機会を売っている人はいますか？(援助交際含む)

1. いる (人) 15 (7.8%)  
 2. わからない 171 (88.6%)

Q31 逆にあなたは、お金で性交渉の機会を買うこと(援助交際含む)についてどう思いますか？

1. かまわないと思う 34 (17.6%)  
 2. できることならしない方がよい 83 (43.0%)  
 3. 絶対にいけないことだ 52 (26.9%)  
 4. わからない 20 (10.4%)

Q31-1 では、あなただったらどうしますか？

1. 金額によっては買う (円) 29 (15.0%)  
 2. 金額に関係なく買わない 110 (57.0%)  
 3. わからない 49 (25.4%)

Q31-2 あなたの周りに、性交渉の機会を買っている人はいますか？(援助交際含む)

1. いる (人) 24 (12.4%)  
 2. わからない 163 (84.5%)

Q32 あなたが、初めて性交渉を行ったのはいつですか？

1. 高校入学以前 9 (4.7%)  
 2. 高校1年 19 (9.8%)  
 3. 高校2年 32 (16.6%)  
 4. 高校3年 24 (12.4%)  
 5. 浪人中 4 (2.1%)  
 6. 大学1年 15 (7.8%)

Q33 あなたはいままで、何人の相手と性交渉したことがありますか？

1. 0人 52 (26.9%)  
 2. 1人 29 (15.0%)  
 3. 2~3人 47 (24.4%)  
 4. 4~5人 13 (6.7%)  
 5. 6~7人 11 (5.7%)  
 6. 8人以上 10 (5.2%)  
 7. わからない 14 (7.3%)

Q34 ところで話は変わりますが、あなたは美少女ソフト(恋愛シミュレーション含む)のことを知っていますか？ また、実際にプレイしたことがありますか？

1. プレイしたことがある 56 (29.0%)  
 2. 知っているが、プレイしたことはない 101 (52.3%)  
 3. 全く知らない 31 (16.1%)

Q34-1 プレイしたことがある方に伺います。どれくらいの頻度でプレイしますか？

1. ほとんど毎日 9 (15.8%)  
 2. 週に2~3日 6 (10.5%)  
 3. それ以下 42 (73.7%)

・全自由回答

Q30-1 金額によっては売る

女：3~50,000円 男：100,000円  
 男：50,000円

女：100,000円 女：80,000円 男：26,250円

男：100,000円 男：10,000円 男：5,000円

男：1,000,000円 男：時価 男：6,000,000,000,000円

男：200,000円 男：100,000,000円  
 女：1,000,000円  
 男：20,000円 男：50,000円 男：  
 32,000円  
 男：180,000円 男：100,000円  
 男：20,000円  
 男：50,000円  
 [最大 6兆円 最小 5千円]

Q30-2 性交渉の機会を売っている人

男：1人 男：5人 女：1人 男：  
 1人 男：昔いた。  
 男：?人 男：1人 男：1人 男：  
 3人 男：43人  
 男：2人 女：1人 男：1人  
 男：?人  
 [最大 43人 最小 1人]

Q31-1 金額によっては買う

女：10,000円 男：4,000円 男：  
 5,000円  
 男：1~200,000円 男：10,000円  
 男：10,000円  
 男：50,000円 男：1,050円 男：  
 30,000円以下  
 男：10,000円 男：2,000円 男：  
 100円 男：5,000円  
 男：時価 男：6,000,000,000,000円  
 男：2,000円  
 男：10,000円 男：1~20,000円  
 男：20,000円  
 男：2円 男：230円 男：20,000円  
 男：5,000円  
 男：40,000円  
 [最大 6兆円 最小 2円]

Q31-2 性交渉の機会を買っている人

男：4人 男：3人 男：2人 男：  
 数人 男：4~5人  
 男：7人 男：2~3人 男：1人

男：2人 男：1人

男：3人 男：2人 男：3人 男：  
 5人 男：2人

男：3人 男：1人 男：17人  
 男：1人 男：1人

[最大 17人 最小 1人]

Q34-2 とくに面白いと思うソフトの題名  
 と、内容を簡単に説明してください。

女：『卒業M』『同級生』『下級生』でも  
 老舗は「ときメモ」でしょう。

男：『ときめきメモリアル』 女：『と  
 きめきメモリアル』

男：『同級生2』登場する女性の方と話  
 をして、最終的に両思いになれば  
 ハッピーエンド。期間はおよそ  
 ゲーム中の時間で20日、冬休みと  
 いう設定らしい。

男：『ときめきメモリアル』『トゥルー  
 ラブストーリー』恋愛SLG

男：『ときめきメモリアルPS版』

男：『ときめきメモリアル』登場してく  
 る数人の女の子から一人を彼女に  
 する。

男：『ときめきメモリアル』『下級生』

男：『痕』ビジュアルノベル。事故死し  
 た父の葬式に出席するため、父の  
 実家を訪れた主人公は、やがて自  
 らの一族にまつわる哀しい呪いを  
 知ることになる。

『下級生』プレイヤーは高校3年生  
 となり、同じ町に住むいろいろな  
 女の子と恋愛をする。

男：『ときメモ』 男：『極』マージャ  
 ン『同級生』

男：『下級生』『同級生』 男：『プリン  
 セスメーカー』

男：『YUNO』歴史とは何かという概  
 念を含んでいるアドベンチャー  
 ゲーム。自分が本来いるべき世界

を探していく。

男：『同級生 1, 2』CG, シナリオ共に良い。エルフはすごい。

男：『マリーのアトリエ』劣等生の錬金術士マリーを留年させないようにするゲーム。

男：『メルティールンサー』正義のみかた

男：『きずあと』サスペンスビジュアルノベル『To Heart』恋愛ビジュアルノベル

男：『ときめきメモリアル』 男：『ときメモ』しおりをGETする。

女：『SEEK (PIL)』SM 調教ゲーム。スカトロ有。

男：『EVE~Bearst error』2人の主人公がそれぞれ違った形で一つの事件にかかわる。

男：『ファイナルファンタジータクティクス』シミュレーション

男：『Bio HAZARD』アドベンチャー

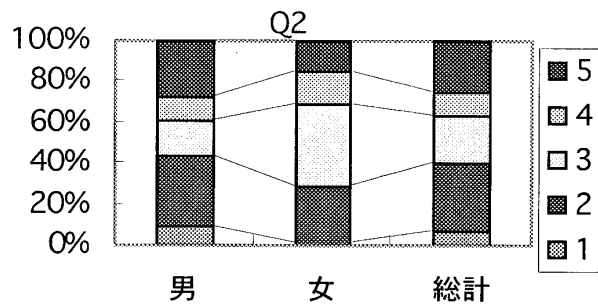
## 2. 男女差別に関する質問群についての考察

ここでは、男女差別に関するQ 2～8の単純集計の他に F 1 を用いたクロス集計とその  $\chi^2$  検定の結果をもとに考察した。F 1 は、1 が男性、2 が女性である。グラフは男女で有意差があったものを中心に示す。

### 2-1 性別役割分業

Q 2 では下記のように男女で有意差が認められた。男性に比べて女性に「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方への否定がより強いことがわかる。「夫は外で働き、妻は家庭を守る」への反対派が全体で 34.7%、特にクロス集計では、賛成であると答えた女性は 0 人であった。

図表 1 (Q 2 × F 1)



	Q 2				
F 1	1	2	3	4	5
男	9.1%	34.4%	17.5%	11.7%	27.3%
女	0.0%	28.2%	41.0%	15.4%	15.4%
総計	7.3%	33.2%	22.3%	12.4%	24.9%

P < 0.05

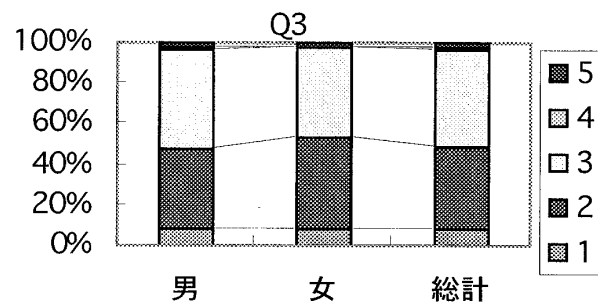
Q 2 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方をどう思いますか？

1. 賛成である 14 ( 7.3%)
2. どちらかといえば賛成である 64 (33.2%)
3. どちらかといえば反対である 43 (22.3%)
4. 反対である 24 (12.4%)
5. わからない 48 (24.9%)

### 2-2 女性差別の存在

Q 3 の「今の日本社会には女性差別があるか」という質問に関しては、全くないと答えた人はわずか 1.0%で、あると答える学生は女性ばかりに偏るか予測していたが、クロ

図表 2 (Q 3 × F 1)



	Q 3				
F 1	1	2	3	4	5
男	8.4%	39.0%	49.4%	1.3%	1.9%
女	7.7%	46.2%	43.6%	0.0%	2.6%
総計	8.3%	40.4%	48.2%	1.0%	2.1%

N.S

ス集計結果を見る限り、男女の有意差はみられなかった。男性も多くの人が、今の日本の女性差別があると認めていることがわかった。

Q 3 あなたは今の日本社会において、女性に対する差別があると思いますか？

- 1. とても多くあると思う 16 ( 8.3%)
- 2. かなりあると思う 78 (40.4%)
- 3. 多少はあると思う 93 (48.2%)
- 4. 全くないと思う 2 ( 1.0%)
- 5. わからない 4 ( 2.1%)

### 2-3 女性の就職と家事労働の分担

Q 4の「女性は職業を持つことについてどう思うか」という質問に関しては、職を持たない方がよいと答えた人はわずか1.6%、Q 5の「夫婦間での家事の分担はどのように行うべきか」という質問に関しては、妻中心で行うべきであると答えた人は6.2%という結果がでた。いずれも男女で有意差はみられなかった。

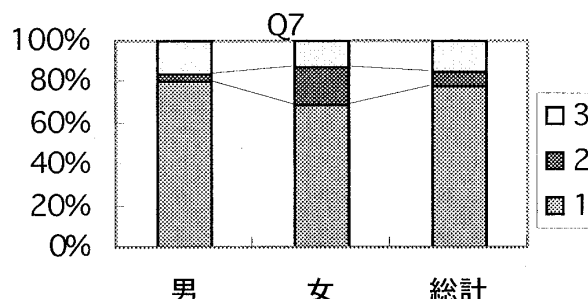
### 2-4 現在の性別への満足

Q 6の「男性と女性のどちらが得だと思うか」という質問に関しては男性と答える人が比較的多い。Q 7の「自分の今の性別に満足しているか」という質問に関しては、満足派が圧倒的に多いが、クロス集計で見ると女性の方が圧倒的に満足度が低い。

さらにQ 8の「もし生まれ変われるとしたら男性、女性のどちらになりたいか」という質問への回答をみるとは男性と答える学生が、女性と答える学生の2倍以上もいる。こ

れらから現代の学生たちは、今の日本社会は女性にとって、決して住み良い社会であるとは思っていないことがよくわかる。

図表3 (Q 7×F 1)



	Q 7		
F 1	1	2	3
男	80.5%	3.9%	15.6%
女	69.2%	17.9%	12.8%
総計	78.2%	6.7%	15.0%

P<0.05

Q 7 あなたはいまの自分の性別に満足していますか？

- 1. 満足している 151 (78.2%)
- 2. 満足していない 13 ( 6.7%)
- 3. わからない 29 (15.0%)

### 2-5 小括：性別役割分業の否定の二つの意味

概して学生たちは女性差別の存在を認知しているといえる。またこの社会が特に女性にとって生き難いものであることもよく現われた結果といえよう。

性別役割分業の否定について少し考えてみる。ここで言う性別役割分業の否定には2つの意味がある。1つは、Q 2の「夫は外で働き、妻は家庭を守る」、Q 4の「女性は職を持つべきではない」、Q 5の「夫婦間の家事の分担は妻中心で行うべきである」などの近代家族形成以来の、夫婦の役割分業観の否定である。夫婦の役割分業は、家事、育児、老人の

介護などの、人間的な欲求の充足を女性(妻)の仕事であるとし、女性を家庭に追いやり、家族についてもっばら女性が責任と義務を負わなければならないという、女性にとって様々な不利な状況を生み出す結果になる。

もう1つは、職場や職業における、いわゆる「女性向きの仕事、男性向きの仕事」という役割の分担の否定である。このような役割の分担は、女性の多方面での自己実現(表現)の機会を奪い、昇進の遅れなどに、根拠のない格好の理由を与えている。

性別役割分業観の背景には、女らしさ、男らしさの社会的規定(イデオロギー)による役割の固定化がある。つまり「女性は子供を生む者であり、母親として育児を行い、家事に専念することが、女性に最もふさわしい生き方である」というのである。しかし、この「生物学的性差」による女らしさ規定は、「だから、女性は家庭以外の領域で自己実現(表現)する必要はなく、仕事を持つ場合でも、もっばら女性的領域の仕事にすべきである」というように容易に変化してしまうのである。これは、女性もまた、多様な能力と個性を持つ人間であり、家事や育児以外にも自己実現(表現)する場を求める権利があるという、当たり前のことが全く忘れられてしまっていることを表している。生物学的性差と社会的性差の混同が女性差別を生み、女性の社会進出を妨げているという事実を学生たちはしっかりと認識しているのである。

### 3. 恋人と結婚の相手選びに関する質問群についての考察

ここでは、恋人と結婚の相手選びに関するQ 18~21の単純集計とF 1を用いた男女別のクロス集計とその $\chi^2$ 検定の結果をもとに考察した。

#### 3-1 恋人に対して望むもの

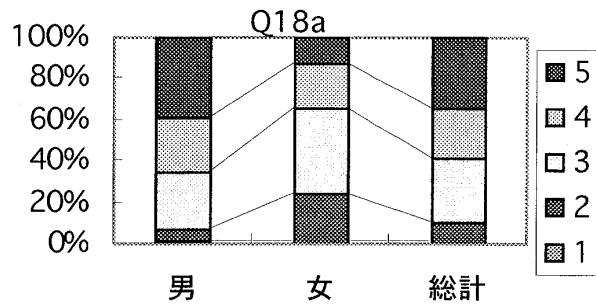
自分の恋人となる相手に対して望むものと

して、学歴、職業、経済力、人柄、容姿、続柄の6項目についてそれぞれ程度をたずねてみた。以下のように人柄を除く全てについて男女で有意差がみられた。女性は男性よりも学歴、職業、経済力を重視している度が高い。逆に女性は男性よりも相手の容姿を重視している。

Q18 あなたは恋人に対して次のようなことをどの程度重視しますか？

とても重視する    どちらでもない    全く関係ない  
1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5

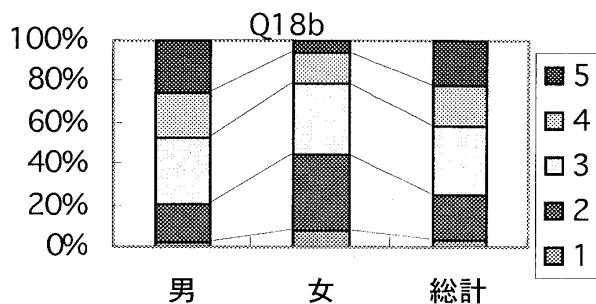
図表4 学歴 (Q 18 a × F 1)



	Q 18 a				
F 1	1	2	3	4	5
男	0.7%	5.9%	28.1%	26.1%	39.2%
女	0.0%	23.7%	42.1%	21.1%	13.2%
総計	0.5%	9.4%	30.9%	25.1%	34.0%

P<0.05

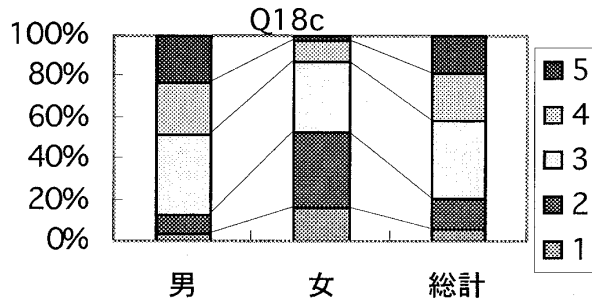
図表5 職業 (Q 18 b × F 1)



	Q 18 b				
F 1	1	2	3	4	5
男	2.0%	19.0%	32.0%	21.6%	25.5%
女	7.9%	36.8%	34.2%	15.8%	5.3%
総計	3.1%	22.5%	32.5%	20.4%	21.5%

P<0.05

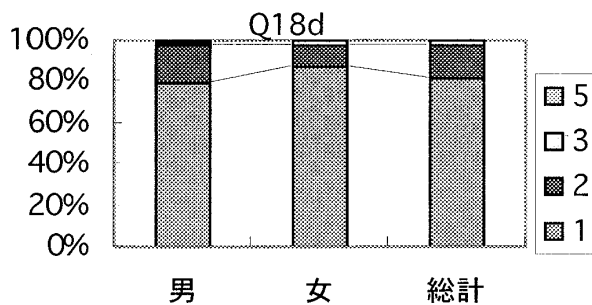
図表 6 経済力 (Q 18 c × F 1)



	Q 18 c				
F 1	1	2	3	4	5
男	3.3%	9.8%	39.2%	24.8%	22.9%
女	15.8%	36.8%	34.2%	10.5%	2.6%
総計	5.8%	15.2%	38.2%	22.0%	18.8%

P<0.05

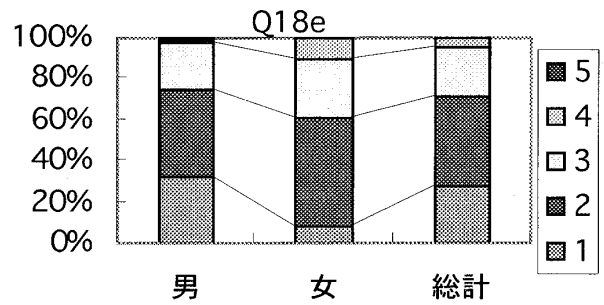
図表 7 人柄 (Q 18 d × F 1)



	Q 18 d			
F 1	1	2	3	5
男	79.7%	18.3%	1.3%	0.7%
女	86.8%	10.5%	2.6%	0.0%
総計	81.2%	16.8%	1.6%	0.5%

N.S

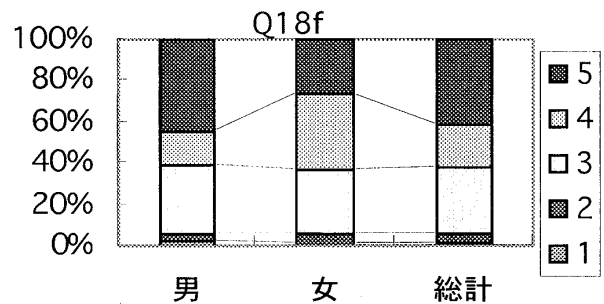
図表 8 容姿 (Q 18 e × F 1)



	Q 18 e				
F 1	1	2	3	4	5
男	32.0%	42.5%	22.9%	2.0%	0.7%
女	7.9%	52.6%	28.9%	10.5%	0.0%
総計	27.2%	44.5%	24.1%	3.7%	0.5%

P<0.05

図表 9 続柄 (Q 18 f × F 1)



	Q 18 f				
F 1	1	2	3	4	5
男	2.0%	3.9%	32.7%	16.3%	45.1%
女	0.0%	5.3%	31.6%	36.8%	26.3%
総計	1.6%	4.2%	32.5%	20.4%	41.4%

P<0.05

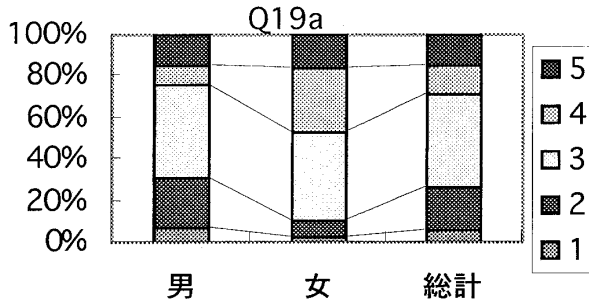
### 3-2 相手が恋人に望むと思うもの

次にこれとは逆に相手が恋人としてどのようなことを重視していると思うかをたずねた。以下のように学歴、職業、経済力について男女で有意差がみられた。いずれについても男性の方が女性よりも相手がそれを強く望むと考えていることがわかる、人柄、容姿、続柄については男女で有意差はみられなかった。



Q19 逆に、あなたの恋人は次のようなことをどの程度重視すると思いますか？  
 とても重視する      どちらでもない      全く関係ない  
 1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5

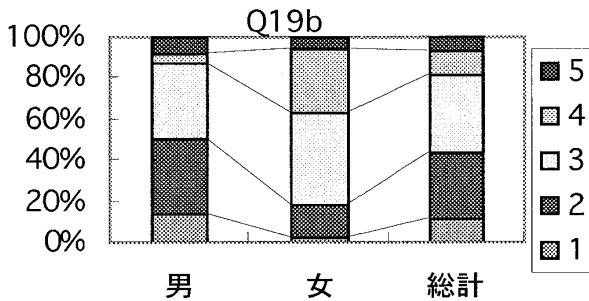
図表 10 学歴 (Q 19 a × F 1)



	Q19 a				
F 1	1	2	3	4	5
男	6.6%	24.3%	45.4%	9.2%	14.5%
女	2.6%	7.9%	42.1%	31.6%	15.8%
総計	5.8%	21.1%	44.7%	13.7%	14.7%

P<0.05

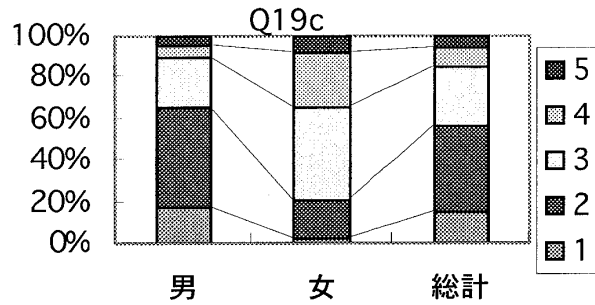
図表 11 職業 (Q 19 b × F 1)



	Q19 b				
F 1	1	2	3	4	5
男	13.8%	36.8%	36.2%	5.3%	7.9%
女	2.6%	15.8%	44.7%	31.6%	5.3%
総計	11.6%	32.6%	37.9%	10.5%	7.4%

P<0.05

図表 12 経済力 (Q 19 c × F 1)



	Q19 c				
F 1	1	2	3	4	5
男	17.8%	47.4%	25.0%	5.3%	4.6%
女	2.6%	18.4%	44.7%	26.3%	7.9%
総計	14.7%	41.6%	28.9%	9.5%	5.3%

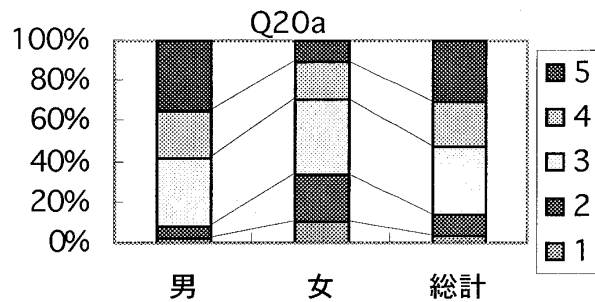
P<0.05

### 3-3 結婚相手に対して望むもの

今度は自分の結婚相手となる人に対して望むものとして、学歴、職業、経済力、人柄、容姿、続柄の6項目についてそれぞれ程度をたずねてみた。以下のように学歴、職業、経済力、続柄については有意差がみられた。いずれも女性の方が男性よりも重視している。人柄、容姿については有意差はみられなかった。

Q20 あなたは結婚相手に次のようなことをどの程度重視しますか？  
 とても重視する      どちらでもない      全く関係ない  
 1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5

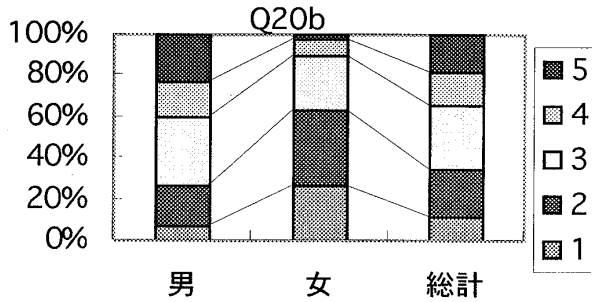
図表 13 学歴 (Q 20 a × F 1)



	Q20 a				
F 1	1	2	3	4	5
男	2.0%	6.5%	33.3%	22.9%	35.3%
女	10.5%	23.7%	36.8%	18.4%	10.5%
総計	3.7%	9.9%	34.0%	22.0%	30.4%

P<0.05

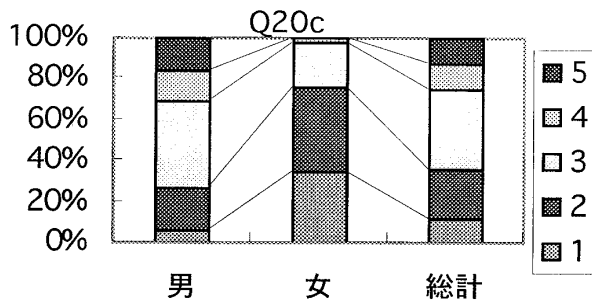
図表 14 職業 (Q 20 b × F 1)



	Q20 b				
F 1	1	2	3	4	5
男	7.2%	19.6%	33.3%	17.0%	22.9%
女	26.3%	36.8%	26.3%	7.9%	2.6%
総計	11.0%	23.0%	31.9%	15.2%	18.8%

P<0.05

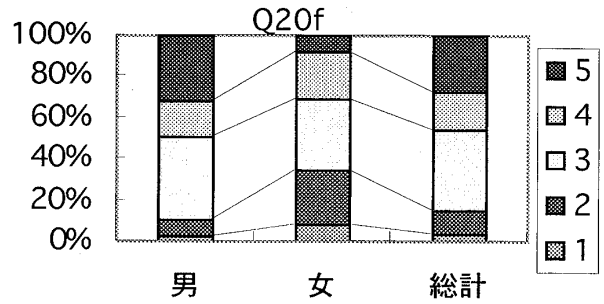
図表 15 経済力 (Q 20 c × F 1)



	Q20 c				
F 1	1	2	3	4	5
男	5.9%	20.3%	43.1%	15.0%	15.7%
女	34.2%	42.1%	21.1%	2.6%	0.0%
総計	11.5%	24.6%	38.7%	12.6%	12.6%

P<0.05

図表 16 続柄 (Q 20 f × F 1)



	Q20 f				
F 1	1	2	3	4	5
男	2.6%	7.8%	39.9%	17.0%	32.7%
女	7.9%	26.3%	34.2%	23.7%	7.9%
総計	3.7%	11.5%	38.7%	18.3%	27.7%

P<0.05

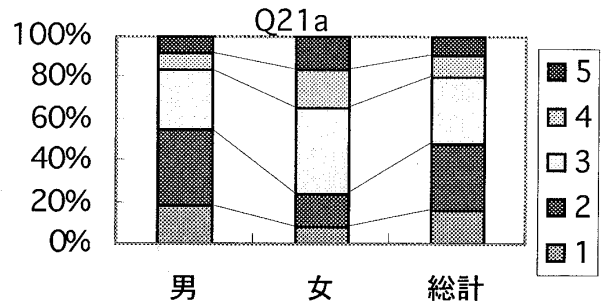
3-4 相手が結婚相手に望むと思うもの

次にこれとは逆に相手が結婚相手についてどのようなことを重視していると思うかをたずねてみた。学歴、職業、経済力について男女で有意差がみられた。いずれについても男性の方が女性よりも相手がそれを強く望むと考えていることがわかる。

Q21 逆に、あなたの結婚相手は次のようなことをどの程度重視すると思いますか？

とても重視する    どちらでもない    全く関係ない  
 1 ..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5

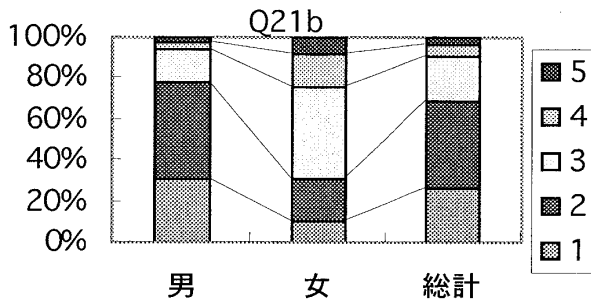
図表 17 学歴 (Q 21 a × F 1)



	Q21 a				
F 1	1	2	3	4	5
男	17.9%	37.1%	29.1%	7.9%	7.9%
女	7.9%	15.8%	42.1%	18.4%	15.8%
総計	15.9%	32.8%	31.7%	10.1%	9.5%

P<0.05

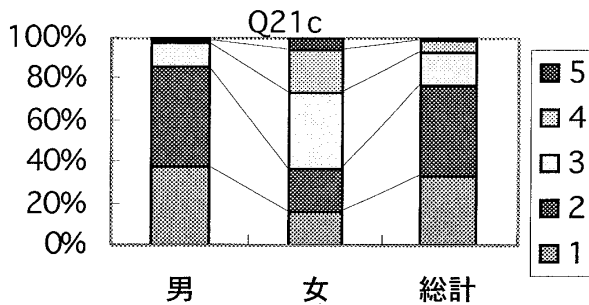
図表 18 職業 (Q 21 b×F 1)



	Q21 b				
F 1	1	2	3	4	5
男	30.5%	47.7%	15.9%	3.3%	2.6%
女	10.5%	21.1%	44.7%	15.8%	7.9%
総計	26.5%	42.3%	21.7%	5.8%	3.7%

P<0.05

図表 19 経済力 (Q 21 c×F 1)



	Q21 c				
F 1	1	2	3	4	5
男	38.4%	48.3%	10.6%	2.0%	0.7%
女	15.8%	21.1%	36.8%	21.1%	5.3%
総計	33.9%	42.9%	15.9%	5.8%	1.6%

P<0.05

### 3-5 結果の考察

Q 18は「恋人に何を望むか」という質問であるが、ここで目立ったのは人柄が特に重要

であるということと、ほとんどの学生が恋人には学歴を望んでいないということである。クロス集計で見ると、容姿に関しては男性の方が多くを望むが、全体的に見ると女性の方が恋人に望むものが多いと言える。

Q 19はQ 18とは逆に「恋人には何を望まれると思うか」という質問である。ここでおもしろいのは恋人に望むものと恋人に望まれるだろうと思うものにはっきりと差が現れたことである。Q 18の結果よりもQ 19の結果の方が全体的に「重視する」にやや傾いている。自分はそんなに恋人に望んではいないのに、恋人は自分に多くを望んでいると思っているのである。これは人に常に見られているという意識の現れではないだろうか。言い換えると、自分はそんなに他人を見ていないのに、自分は他人に見られているとほとんどの学生が思っているということである。クロス集計を見るとその見られているという意識は全体的に女性の方が強いように思える。これは女性の方が(性的に)商品価値が高いと意識しているということではないだろうか。

また男性のほとんどが社会的評価の高い学歴や職業、高い経済力などを相手が恋人として必須の条件と考えていると考えているのがわかる。

次にQ 20の「結婚相手には何を望むか」という質問であるが、男性のサンプル数の方が多いこともあり、思うような結果が出なかったが、結婚相手に望むものとなると恋人に望むそれとは異質であることは間違いのないと言える。クロス集計で見ると、当然と言えるのかもしれないが、女性の方が相手に学歴、職業、経済力、続柄と多くを望む。「性別役割分業は女性にとって不利な状況を作り出す」と2.では記したが、女性の多くには「働いて生活費を稼ぐのは男性の仕事である」という意識が前提として存在しているのかもしれない。この二つの共存が現実の日本社会である。

Q 21は「結婚相手には何を望まれると思う

か」という質問であるが、これもやはりQ 20に比べ「重視する」に傾いている。クロス集計で見ると、男性は女性から何を望まれるかを理解している。しかしその情報がメディアなどを通じた情報であるせいか、極端に重視されると思っているようであるが、結果を見る限り、女性は男性が思っているほど多くを望んではないということが言えるのである。

Q 18～Q 21を通して、全体的に男性が女性に望むのは「人柄と容姿」で、女性が男性に望むのは「人柄、容姿、学歴、職業、経済力」であることが見て取れる。

### 3-6 小括：恋愛と結婚の分離

以上の結果から恋愛と結婚では男性も女性も相手に求めるものが違うということも言うだろう。結婚となると生活が大きく絡んでくる。その場合、特に女性は相手の経済力など生活の保障となる部分を重視して相手を選ぶことになる。ここにはきれいごとではないホンネがよく現われてくる。この問題については山田昌弘『結婚の社会学』が不況期における男の結婚難発生の原因をめぐってデータに基づいて冷徹な分析を展開している（山田 1994）。

むろん世には「恋愛結婚」という言葉もあるのではあるが、もともとこの二つは異なるものであったらしい。恋愛と結婚はそもそもどう違うのか。ここではまず、山田昌弘『現代日本のフツーの恋愛』（山田 1996）の説明を参考にしながら、恋愛と結婚の歴史を簡単にまとめておく。

恋愛という言葉が発明されたのは明治時代で、英語のラヴの翻訳語としてつくられたのが始まりだと言う。さらにその頃になると、キリスト教の影響を受けたインテリが、近代ヨーロッパタイプの恋愛を輸入した。それが「永遠の愛（ロマンス）」というものであった。情熱的に永遠の愛を求めるのが人生の目的だ

という考え方の誕生が、恋愛結婚の誕生につながっていった。お互いに好きになったら、恋愛結婚して、一生の愛を神の前で誓うというのが、近代的恋愛のパターンとなったわけである。ただ、戦前は、一部のインテリ以外に、この様な考え方は広まらず、一般化したのは第二次世界大戦後の高度成長期の頃だと言う。その頃は、異性の友人とは恋人の前段階であり、デートしたら恋人、恋人とは原則的に結婚するものだと考えられていた。つまり当時（戦後から1970年頃まで）の恋愛は結婚したいという気持ちが恋愛だったのだ。

では、現代の恋愛と結婚は、どのような関係にあるだろうか。山田は次のように言っている。「恋愛したからといって、結婚する『必要』がなくなり、恋愛を恋愛として楽しむという傾向が生じた（中略）（さらには）恋愛は結婚の手段ではなく、恋愛自体が目的になった」（山田 1996：148）、とも言っている。これは今回のアンケート対象者についても同じことが言える。その裏付けとなるのが、恋人に望むものと結婚相手に望むものの差である。結婚は恋愛の直線上にある、と考える戦後から1970年頃までの恋愛観であれば、恋人に望むものと結婚相手に望むものの差など生じるはずもない。なぜならば、恋人とは結婚相手なのだから。

恋人に望むものと結婚相手に望むものに、ここまではっきりと差が現れると、恋愛と結婚はもはや完全に分離していると考えの方が自然であろう。

山田の言うように、恋愛自体が目的になっているのである。もちろん、結婚が目的でなくなったわけではない。むしろ、結婚も一つの目的として立派に成立している。ただそれは、恋愛とは別の目的であり、それに望むものも異なるのである。しかしそれは、女性の社会進出や青少年の経済的余裕の発生など、時代の流れに沿って生じた事態である。結婚と結び付けてのみ性愛が存在する状態からみ

ると、むしろ自然なことであると言えるのだろう。その意味では「恋愛結婚」の理念に耐用限界がきているのかもしれない。

#### 4. 数量化理論Ⅲ類による分析

##### 4-1 数量化理論Ⅲ類について

以上、いくつかの質問について単純集計とクロス集計を用いて分析を試みてきた。しかし、これは、アンケート調査から得られたデータの、ごく一部を分析したにとどまっている。そこで、林の数量化理論Ⅲ類による分析をも試みた。

数量化理論Ⅲ類というのは、対象のもつ属性や変数から内部の構造や関連性を明らかにする分析手法であり、扱うデータがアンケート調査などの質的データのときにおもに使用される。この数量化理論Ⅲ類の計算結果の中の「カテゴリースコア」の第1と第2の2つの列を用いて散布図を作成することで、変数間の関係やグループ分けをすることができる。この散布図で表示される変数同士が近ければ関連性が高く、これらを一つのグループとすることができ、遠ければ関連性が低いことを意味する。そして、散布図のX軸とY軸の意味を考えることにより、グループの意味がわかる。社会調査の教科書にも数量化理論Ⅲ類を使った分析の例が紹介されている(宝月ほか1989)。

以下に今回行った分析結果を記すが、通常こういった意識調査のような社会科学系のアンケートを分布図で表すと、様々なノイズが介入してくるので、はっきりとしたグループ分けには困難を伴うことが多いことを断っておきたい。

##### 4-2 女性差別に関わる質問群の選択

今回は、性別役割分業意識などの女性差別意識がどのような要素から構成されているのかに焦点をしばることにした。以下が今回の分析のために選び出した質問群である。それ

らには選択肢別に通し番号をつけた。一部の質問については複数の選択肢を一括した。そのため調査票にある選択肢とは一致していない。使用した変数は全部で60になる。

- F 1 あなたの性別は？
- 1 1. 男性
  - 2 2. 女性
- F 2 あなたの現在の年齢は？
- 3 1. 20歳未満
  - 4 2. 20歳以上
- F 3 あなたの住まいは？
- 5 1. 自宅
  - 6 2. 自宅以外
- F 6 あなたはサークルに所属していますか？
- 7 1. はい
  - 8 2. いいえ
- F 7 あなたは講義にはどれくらい出席していますか。
- 9 1. 9割以上
  - 10 2. 7～9割未満
  - 11 3. 7割未満
- F 10 あなたの家庭の年収(税込み)はおよそどれくらいですか？
- 12 1. 400万円未満
  - 13 2. 400～500万円未満
  - 14 3. 500～600万円未満
  - 15 4. 600～700万円未満
  - 16 5. 700～800万円未満
  - 17 6. 800～900万円未満
  - 18 7. 900万円以上
- Q 1 あなたは、全体的にみて今の生活に満足していますか？
- 19 1. 満足している
  - 20 2. 不満である
- Q 2 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方をどう思いますか？
- 21 1. 賛成である

22 2. 反対である

23 3. わからない

Q 3 あなたは今の日本社会において、女性に対する差別があると思いますか？

24 1. かなりあると思う

25 2. 多少はあると思う

26 3. 全くない

27 4. わからない

Q 4 あなたは女性が職業をもつことに対してどう思いますか？

28 1. 職業をもたないほうがよい

29 2. 職業をもつほうがよい

30 3. その他

31 4. わからない

Q 5 あなたは夫婦間での家事の分担は、どのようにするのがよいと思いますか？

32 1. 妻中心で行うべきである

33 2. その他

Q 6 あなたは全体的にみて、男性と女性のどちらが得だと思いますか？

34 1. 男性

35 2. 女性

36 3. どちらともいえない

Q 7 あなたはいまの自分の性別に満足していますか？

37 1. 満足している

38 2. 満足していない

39 3. わからない

Q 8 あなたはもし生まれ変われるなら男性、女性のどちらになりたいですか？

40 1. 男性

41 2. 女性

42 3. どちらでもよい

43 4. わからない

Q 14 あなたは、事実婚についてどのように思いますか？

44 1. 好ましいことだと思う

45 2. 好ましいことだとは思わない

46 3. わからない

Q 16 あなたはホモ（男同士の性愛関係）についてどう思いますか？

47 1. 全く理解できない

48 2. 理解できないわけではないが、違和感を覚える

49 3. 全くなんの違和感はない

Q 17 あなたはレズ（女同士の性愛関係）についてどう思いますか？

50 1. 全く理解できない

51 2. 理解できないわけではないが、違和感を覚える

52 3. 全くなんの違和感はない

Q 20 c あなたは結婚相手の経済力を重視しますか、しませんか？

53 1. 重視する

54 2. どちらでもない

55 3. 重視しない

Q 24 あなたには、何でも打ち明けられる友人がいますか。

56 1. いる

57 2. いない

58 3. わからない

Q 26 あなたには現在、つきあっている恋人はいますか？

59 1. いる

60 2. いない

#### 4-3 分析結果と二つの軸の解釈

以下に記した散布図 [図 20] は EXCEL による出力結果に変数の番号を加筆したものであり、さらに [図 21] はその散布状況から判

断して、A, B, C, Dのグループの存在を仮想して四つの円を加筆したものである。但し、変数 26, 27, 38, 39, 49については大きく離れた位置にあるため、これらの散布図に

は含まれていない。

大きくA, B, C, Dという四つのグループの存在をみてとれると考えてみた。

このうちまずAとBに含まれる変数の内容

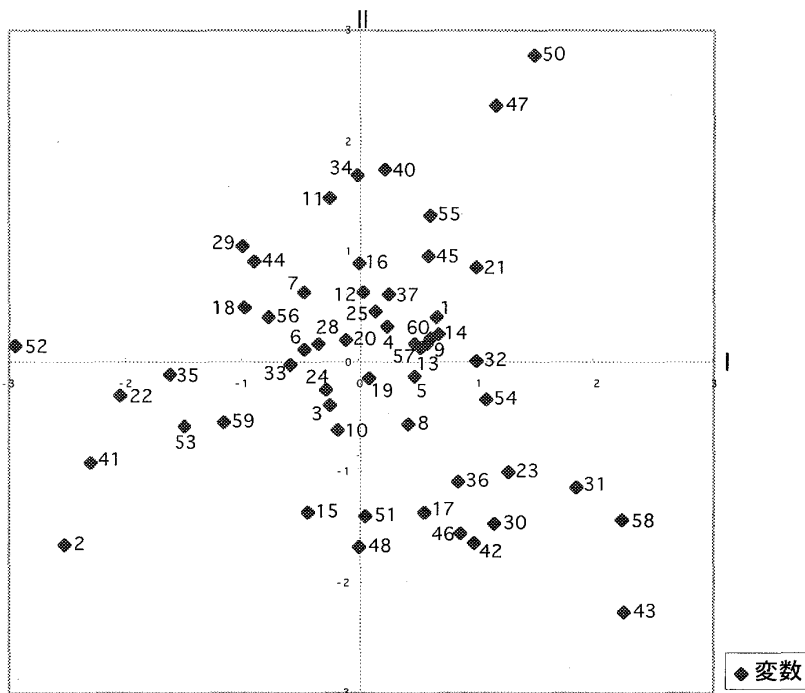


図 20 女性差別に関わる質問群の散布状況

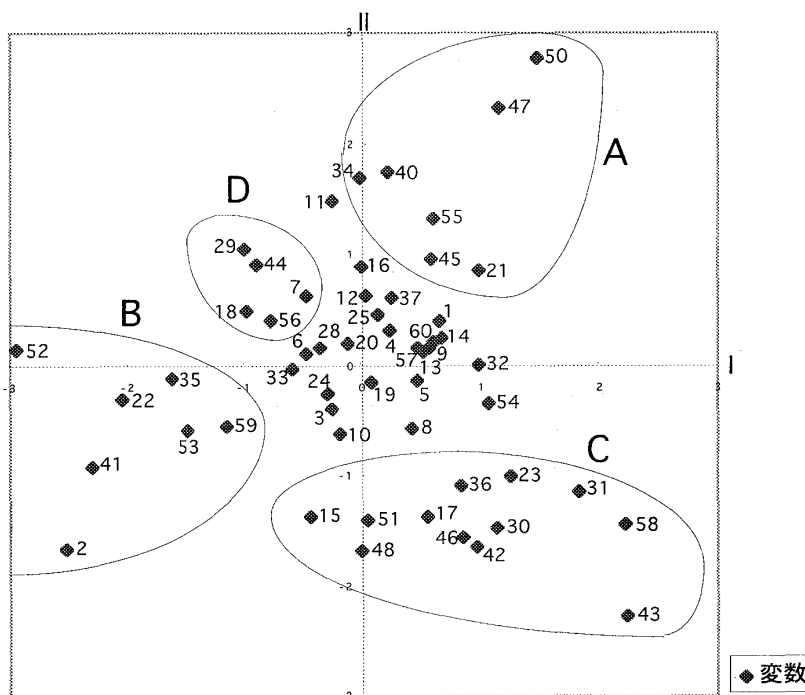


図 21 女性差別に関わる質問群の散布状況と分類案

をみると対立的なものが多い。例えば、右上にある47は「ホモを全く理解できない」、50は「レズを全く理解できない」であるが、これらはAグループに属する。それに対して52の「レズに全く違和感なし」は左端にあり、Bグループに属する。21の「夫は外、妻は家」という役割分業に賛成」はAグループに属するのに対して、22の「夫は外、妻は家」という役割分業に反対」はBグループ。40の「生まれ変わるなら男性」、34の「全体としてみたら男が得」はAグループなのに対して、41の「生まれ変わるなら女性」、35の「全体としてみたら女が得」はBグループ。さらに55の「結婚相手の経済力を重視しない」がAグループなのに対して、53の「結婚相手の経済力を重視する」はBグループ。といった具合である。

他方、Cグループには23の「夫は外、妻は家」という役割分業についてわからない」、31の「女性が職業を持つことの是非についてわからない」、46の「事実婚の是非についてわからない」、42の「生まれ変わるならどちらでもいい」、36の「男女のどちらが得かについてどちらともいえない」、58の「友人がいるかわからない」など、中間的な選択肢のもの、態度保留的な選択肢のものも多く集まっているのが特徴である。

さらにDグループをみると、44の「事実婚を支持」、29の「女性が職業をもつことに賛成」、56の「友人がいる」、7の「サークル所属あり」、18の「年収900万以上」が含まれている。

AグループとBグループを比較した場合、Aグループが保守的ないし現状肯定的意識であるに対してBグループは革新的ないし現状批判的意識であるいえよう。またDグループにはBグループと近い傾向がみられる。というより44の「事実婚を支持」、29の「女性が職業をもつことに賛成」にみられるようにその革新的理念がより鮮明に現われているとでもいうべきであろうか。

これらに対して「わからない」の多く集まったCグループには質問されることそのものへの違和感や距離化の傾向、或いは態度保留の表明の傾向が伺えるといえよう。保守的でも革新的でもない。女性差別に関わる質問に対して無関心な、あるいは無関心であることを装うタイプの学生というプロフィールが浮かび上がる。

以上のように状況を把握した上で二つの軸の意味について推察してみる。X軸（横軸）については、むろん簡単に言い切ることはできないが、Aグループ対B+Dグループという対立を想定して、保守と革新を示す軸であると考えることができる。右方向が保守で左方向が革新である。共にX軸（横軸）上にある32の「夫婦の家事分担は妻中心」と33の「夫婦の家事分担は妻中心以外」とのコントラストが決め手となった。

Y軸（縦軸）についてはなかなか難しいが、54の「結婚相手の経済力を重視する」がX軸（横軸）より下に、55の「結婚相手の経済力を重視しない」がX軸（横軸）より上にあることは、一つのヒントになると考えられる。Y軸（縦軸）は政治的無関心ないし現実主義派と政治的積極主義ないし理念優先派という対立を示す軸ではなかろうか。下方向が前者であり、上方向が後者である。

#### 4-4 小括：女性差別意識の内実

B+Dグループというものを想定すると、そこには同性愛差別や女性差別の現状に対する批判の姿勢を読み取りうる変数のほとんどが含まれている。基本的属性についてみると2の「女」、7の「サークル所属あり」、18の「年収900万以上」、59の「恋人あり」などが含まれている。性別で女性がここにあるのはフェミニズム関連のテーマであることが作用してだろうが、他の三つから言えるのは生活に余裕があってアクティブな日々を送っている学生の像である。また恋人が実際にいると



女性差別について考える機会が多くなるということもあるのだろう。

BグループとDグループとの違いについて言うと、Bグループが現実的なのに対してDグループは理想的ということになる。ややうがった見方かもしれないが、Dグループについてはあまり生活に困ったことがないので理想的な「正解」をストレートに表明できるといようにも感じられる。この構図は最もラディカルな社会運動の担い手がしばしば高級住宅街に住むハイソサイティであるのとよく似ている。

他方、これらと逆にAグループには同性愛差別や女性差別の現状を固定、強化しかねない保守・反動的な変数群が集まっているといえる。Aグループの円内には含まれていないものの、円のすぐ下方の近いところには、1の「男」、14の「年収500~600万円」、13の「年収400~500万円」、60の「恋人なし」なども位置している。55の「結婚相手の経済力を重視しない」がここに入っているのはこの選択肢を選んだ人のほとんどが「女」ではなく「男」であったことが作用してであろう。家庭の所得水準からみて中産階級に属する男子学生の意識と同性愛差別や女性差別の意識が近いものであることは興味深い。能力のある女性の進出に怯えている、あまり生活にゆとりのない学生と言うプロフィールが浮かび上がる。

「わからない」の多く集まったCグループについては、慎重な検討が必要であろう。これら無関心層は明確な意志表示を避けているが、たぶん何も考えていないわけではない。Y軸（縦軸）の意味から推して理念派というよりは現実派といえる。政治的無関心を装いつつしっかりと現実の自分の生活を守ろうとしている層かもしれない。しかし、同性愛差別や女性差別意識への関与という点からすると「わからない」という態度をとり続けることで結果的にはAグループと共にこうした意

識を存続させてしまう可能性はある。

## 5. 補論：性愛と結婚の現代的位相の分析にあたって

以上で言及した質問項目は今回得られたデータの一部に留まっている。残りの部分については他日を期す、として稿を閉じてもいいところだが、興味を持った人が今後の分析に参加してくれればという期待もある。以下にいくつか誘い水になる話を書いておこう。以下は100%井上個人の文責となる。

### 5-1 日常的な生活実感大切にすること

恋愛・結婚・家族という問題群は我々にとって最も日常的なものの一つといえる。だが、多くの場合、我々はこれらを自明視し、つきつめて考察の対象とすることをせずにいるように思われる。だが、恋愛・結婚・家族はそんなに自明なものなのだろうか。

まずは家族。肝心なのは自分の生活実感大切にし、自分の中に芽生えた素朴な疑問を権威に負けて揉み消してしまわないこと。例えば「家族とは愛の共同体である」といくら高名な社会学者が定義してしようと自分のよく知る家族がおよそそのようなきれいなものではないと感じたら、それはたぶんその社会学者の定義の方にどこか無理があるということなのだ。そういうきれいごとで人間を語ろうとする「高尚」な御仁を笑い飛ばし、逆に観察対象としてしまうくらいの精神的余裕を持つことだ。

多くの「家族」は、実際にはそれを「愛の共同体」であるかのごとく偽装工作し続けなければならない人たちによってかろうじて維持されているというべきだろう。「愛」という名の下に専ら打算ぬきのうるわしい関係の実現ばかりが期待されている人間集団などというものはそもそも異様である。そういう状況にはめ込まれている人間はどこかいつにならざるを得ないのではなからうか。社会学徒

ならそういう類の人間集団の影の部分や現象の舞台裏に鋭敏でなければならない。

問われるべきことは山ほどある。例えば、そもそも我々はなぜ結婚するのか、またなぜ一定の年齢になって結婚しないままだと周囲から咎められるのか、なぜ恋愛と結婚が結びつくことが奨励されるのか、なぜ我々は同性愛を安心して差別するお笑い番組を平気で受容してしまっているのか等々の問題もよく考えてみるだけの価値を持っている。

いや学生諸君にとってはもっと別の生活実感の方が切実かもしれない。例えば、なぜ、混浴してはいけないの、とか、好きな異性とセックスがしたいのにそれをなぜ抑えなければならぬんだ、とか、なぜインサートしないとセックスとして不十分と思ってしまうのか、とか、とにかく日々感ずる自分の身体の欲望に対してもっと真剣になったらどうなんだろう。社会調査への意志はそういう切実さから生まれてくるのである。

ただ生活実感から問いが始まるとしても、問いをつきつめていくには現象を歴史的に検討することが必要になってくる。或いはなまなましい実証データを得て検討することが必要になってくる。社会科学の考察というものは考察を進めていく材料を得たとき、本当に面白く展開できるようになる。

## 5-2 「性のプロトコル」の歴史性という視点

Q 15 では結婚と性愛の関係をかなりしつこくたずねている。またQ 30 やQ 31 では性交渉機会の売買についてどう考えるかを踏み込んでたずねている。さらにQ 32 やQ 33 ではストレートに性交体験をきいている。得られた結果をどう解釈するかはいろいろだろう。そこにはその人の価値観がどうしても現われてしまう。例えば、全体の17.6%もの学生が「お金で性交渉の機会を買うこと」を「構わないと思う」としている事実をみて「今の

若者はくさっている」とのたまう人もいるかもしれない。

「売春のどこがわるい」という挑発的な言い方がある[橋爪1992]。これに対して「売春はやはりわるい」と言い切るのはなかなかたいへんである。基本的なところで性愛を捉えるパースペクティブを誤ると「売春はやはりわるい」という言説はきわめて凡庸な言葉にしかならない。誤解のないように言い添えておくと、「売春はやはりわるい」という見解を撤回するということでは全然ない。相変わらず「売春はやはりわるい」と言うべきだと考えているし、「性の商品化」の多くは批判すべき貧しい事態であると考えている。(ただ「性の商品化」の中には批判の対象とすべきではないケースもあると考えられる)。問題としたいのはそういうことではなくて、近代的な性愛観を前提に物事を見て「売春はやはりわるい」と言ってしまうと何が見えなくなるかということである。

例えば「援助交際」で平気で身体を売る女子高校生たち。彼女たちの行為をみてたじろぎ、そして道徳的な非難を加える私はどこに立ち、どのような価値観を前提としているのか。性行為は人格を伴ったときにだけ実現すべきものだとしてどこかで考えている。つまり愛がないのにセックスするなんていけないことだという「よいこ」的な価値観を根深く身にまとっている。「援助交際」が多くの人の神経を逆撫でしてしまっている状況がある。多くの人たちにもまた「よいこ」的な価値観が蔓延しているということだろう。援助交際を道徳的に咎めるとき我々は、人格を性行為と結びつける近代的性愛観念の枠を前提としていながらそのことに無自覚であるということ、問題はこの点である。この論点については上野千鶴子の近著『発情装置』(上野1998)がたいへん参考になった。またこの経緯については柳田国男もいち早く『明治大正史 世相篇』で触れているという。

愛がないのにセックスするなんていけない。この考えはいったいいつどこから来ているものなのか。歴史的に調べてみると意外と最近のことにすぎないのだ。我が国においてはどうやら明治期に北村透谷がプラトニックラブを賛美し、好色の文化をおとしめたあたりかららしいのだ。つまり若者宿や夜這いの例のように村落共同体において「愛がないセックス」は一般的だった。恋愛を経て結婚へというルートが推奨されるようになって「処女」の意味が変質した。それまで「処女」とは単に婚姻前の女性という意味であり、性交体験のない女性を指す意味はなかった。「処女」の意味内容の変質は性交が性器に還元されていった過程と符合している。赤松啓介などが早くから指摘している(赤松 1992)ことだが、民俗的社会では男も女も身体の快楽を人格の問題とは別に楽しんでいた。一つの民衆知というべきであろう。

ヨコタ村上孝之の近著『性のプロトコル』(ヨコタ村上 1997)が面白い。プロトコルとはコンピュータ用語だが、設定条件のこと。コンピュータにその使用にあたっての設定条件があるのと同じように性愛の捉え方にも設定条件がある。一般のユーザーはあまりプロトコルの存在について自覚していない。しかし、その設定条件の枠の中でコンピューターを利用しているにすぎない。性愛についても同じことがいえる。例えば、異性に対して思いを寄せたりセックスという行為を日々重ねておりながら、多くの場合、我々はそれらが歴史的な規範に支えられたものにすぎない点について無自覚である。

『性のプロトコル』の提起する問題は刺激的だ。読み進めていくと、自分の性愛に関する常識が大いに足元が揺らいだ感がしてくる。例えば、我々はなぜヌード写真集に価値を見出すのか。つまり女性の裸体写真それ自体になぜ欲情してしまうのか。歴史的な再考が求められている。ヨコタ村上によると混浴禁止

令というのが明治2(1869)年に出されたという。これは混浴という風俗を外国人に見せたくないという政府の配慮によるものである。混浴禁上のおふれは寛政の改革以降、江戸幕府によっても出され、それによって江戸では分浴が増えた。しかし地方都市に行けばまだまだ混浴は一般的だったという。ということは女性が浴場で裸体を隠すことは特に必要なかったし、女湯を覗く行為も存在する必要がなかったのだ。因みに「出歯亀」という言葉の出現は明治41(1908)年のことなのだそう。

江戸時代に覗きが全くなかったというのではない。江戸の春画や艶本に覗きは多い。けれども「江戸のポルノグラフィーにおける覗きの表象は、ほとんど必ず性的行為そのものによって性的文脈に置かれている」(ヨコタ村上 1997:146)というのだ。つまり女性の裸体がそれだけで性的欲情をそそると我々にとって日常的なプロトコルはそこには存在していない。覗きのまなざしを成立させているコンテキストが肝心なのである。

この分野に関しては多木浩二の『ヌード写真』というすぐれた先行研究がある(多木 1992)。「ヌード写真」の歴史を辿り、それに向けられた視線の特質を検討するとき、その社会の基本的な作りがくっきりと姿を現わすことがあるのである。

### 5-3 美少女ソフトにみる性愛の貧困

明治期には北村透谷らの頑張りによってプラトニックラブのイデオロギーが普及するのだが、これと平行して「好色」が単なる動物的な肉欲という意味におとしめられていったことも重要である。江戸時代には「好色」はエロスを媒介とする豊かなコミュニケーション空間としての意味を有していた。それに対して「明治になって起こったことは、混浴の禁止を始めとする、さまざまな隠蔽作業を通しての女性の裸体の性化(セクシャライゼー

ション) だった」(ヨコタ村上 1997: 149) のである。この結果、女性の裸体はそれだけでエロティックなものということになってしまった。そしてさらすことを禁じられた裸体に対してはそれを覗く視線が形成される。隠蔽されるがゆえに身体の特定の部分が価値を持つ構図。フーコー風に言えばこのような視線に匿名的な権力は宿るのである。

実はこの視線を利用することが資本主義的生産様式の中で価値をもってしまう事態がさまざまな進化を遂げて今に至っていることを忘れるべきではない。例えば、今回の調査結果でも自由回答として具体的ソフト名を挙げてもらった箇所があったが、女性に屈辱を与えて楽しむ美少女ソフトのユーザーは一定数存在している。美少女ソフトの全貌を把握したわけではないから、こう言い切ると異論もあるかもしれないが、私にはこれらのゲームはどれもこれも甚だワンパターンに見えてしかたがない。

すなわち貧困なエロスの消費が日常的となっているのである。電子メディアが普及していくにあたってばねになっているのがこうした事態であることは見逃せない。この点については西垣通『聖なるヴァーチャルリアリティ』(西垣 1996) に適切な指摘がある。インターネットというと何か「高尚」なもののように聞こえるが、そこをとびかっている情報の多くはポルノではないかというのだ。まったくの話、少しも「高尚」ではない。要するに情報資本主義が活用しているのは依然として、高々混浴禁止令以降にこの列島の人たちに一般的となったにすぎないところの、近代のエロスの枠組みなのである。

付け加えておくと、透谷ら西欧かぶれの知識人たちが入れ込んだプラトニックラヴのイデオロギーの源泉にはキリスト教道徳がある。キリスト教徒たちは基本的に性を恥ずべきことと考えている。ヨコタ村上もこのことに言及している。「精神的愛を希求した敬虔な

キリスト教徒たちがたどりついたのは小さな穴をあけた敷布ごしに性器だけを結合させるというセックスだった。精神性への希求が逆説的に極度の肉体性の強調、性器の特権化という事態を生む」(ヨコタ村上 1997: 136)。こうして性交が性器に還元され、性器の結合行為のみがセックスであるというインサート主義がはびこることとなったのである。それはなまめかしいコミュニケーション過程としてのセクシャリティの消失である。性器へのこだわり、それは逆説的なことにエロスの貧困化を意味しているのである。

ちなみにサディズム、マゾヒズムといった変態性欲の誕生もヨコタ村上によれば、近代の産物という位置付けになる。「セクシャリティのあり方としては、19世紀以前の日本はサディズムを知らなかったのではないか」(ヨコタ村上 1997: 175) とまで彼は述べている。サディスティックな欲望一般がない状況は考えにくいように思われるからこの言明の真偽の判断については慎重であるべきだが、ありうることはある。

例えば、フーコーは、なまめかしいコミュニケーション過程としてのセクシャリティとしての「性愛の術」が失われて「性の科学」に置き換わってしまったと説いている(フーコー 1976=1986)。このときに、変態性欲が代償的なものとして力を増していったであろう経緯は想像がつく。美少女ソフトの多くには変態性欲が取り入れられているが、ここにもエロスの貧困化は如実に現われているというべきだろう。

#### 5-4 同性愛への偏見の意味するもの

Q 16, Q 17 の結果をみると、同性愛に対して多くの人は何らかの違和感を覚えていることがわかる。この調査の実施後に私に質問してきた学生諸君がいたが、この違和感は正直なところ、私の中にも確かに存在している。同性愛者の解放運動を実践している人と話し

たり、すすきのや新宿二丁目のゲイバーを訪れる経験を通してそのことは強く自覚化されてきた。

この違和感はいったいどこから来ているのだろう。やはり歴史的に考えてみることにしたい。氏家幹人『武士道とエロス』(氏家 1995)によると江戸時代には男色というあり方が市民権を得ていた。つまり異性愛と同じ扱いで社会の中にごく普通のこととして存在していた。例えば、義兄弟の契りという観念には精神的なものだけではなく、身体的な接触も含まれていたという。目上の人を敬う感情の中にも男色の要素は十分に入り込む。氏家がこの書物の冒頭で挙げている例だが、信長の草履を懐に入れて暖めた藤吉郎の行為についての有名な逸話にも「性的な気分」は横たわっているのである。

そもそも親密な感情を抱くことや優しく接することに関して性の境界はないのではなからうか。にもかかわらず相手が男か女かということについて過剰に意識してしまうのはなぜなんだろう。例えば、優しく接する時に身体的な愛撫が伴うのはごく自然のことであろう。男であろうと女であろうと関係なく相手ともっと自由に楽にコミュニケーションできないものなんだろうか。これは我々にとって切実な問題ではないのか。

先に触れた同性愛者の解放運動を実践している人は過激な女装をすることによって男性と女性の二項対立という常識的枠組みそれ自体を笑いとばしてしまう戦略をとっている。この二項対立の構図の中でのものを考えてしまうことに実は落とし穴がある。性的少数派に対しての差別問題はこれまでの差別の社会学、あるいは社会運動論において盲点であったと思う。新しい問いが根源的なところから出されねばならないのである。例えば、異性愛者であることに安住して生きている自分とはいったい何者なのかというような。

こうした問いを封印してしまう力をマスメ

ディアは日々発揮している。伊藤悟『同性愛の基礎知識』(伊藤 1996)を通して知ったが、一時期、具体的に言うと91年後半から94年くらいまでの間、マスコミが意図的に同性愛を取り上げていたという。いわゆる「ゲイブーム」である。背後にはエイズを専ら同性愛者の問題としてしまうことでエイズ問題に関する厚生省の責任の隠蔽をはかろうとする意図が働いていたらしい。しかしこの興味本位に作られた「ゲイブーム」によって同性愛者に対するイメージがかえって歪んでしまった側面もあるという(伊藤 1996:35)。例えば、同性愛者はもっぱら性的な存在としてだけみなされてしまう。或る意味で全ての人間は性的存在であるが、いつもセックスばかりしているわけではない。同性愛者も同じである。にもかかわらず、同性愛者となるとマスコミは専ら性生活に関わる質問ばかりしてくるのだという。「同性に意識が向くのが同性愛、異性に意識が向くのが異性愛。ただそれだけのことなんだよネ」というあたりまえのことがマスコミの手にかかると通用しなくなるのである。

マスコミの犯罪はまだまだある。お笑い番組にいわゆるホモネタという言葉がある。同性愛者を安心して差別するテレビのお笑い番組は枚挙に暇がないほどある。同性愛差別が他の差別と違うのは差別に抵抗する勢力がいまだ乏しいことかもしれない。それだけカミングアウトに必要とされる勇気の絶対量も多くなるはずである。むしろここにはそうした作りの番組を平気で受容してしまっている我々視聴者の問題も大きく横たわっていることを忘れてはならない。

やはり伊藤悟『同性愛の基礎知識』に記述があるが、ナチスドイツはユダヤ人だけではなく障害者や同性愛者を厳しく迫害した。同性愛者にはピンクトライアングルが囚人服につけられたという。異性愛だけが正しい性愛だとする価値観には性愛の多様性を認めない

という点でナチスドイツと同様の強制的均一化の痕跡が認められることにも注意すべきだろう。その意味ではゲイの解放運動は継続する戦時動員体制への批判の社会運動でもあるのだ。ちなみに、ピンクトライアングルは今ではゲイ解放運動のシンボルになっている。

### 5-5 終身雇用制と終身結婚制のゆらぎ

ひとりの男性に添い遂げるのが良き妻のあり方だとする。ひとりの女性にだけ愛を捧げるのが良き夫のあり方だとする。あまりに美しい。美しきかな夫婦愛。美しきかな「愛の共同体」。ここではただひとりの異性への愛情は永遠に続くものであるかのように仮想されている。だが、これは現実の人間の生活のありのままの姿であろうか。

多くの「家族」は、実際にはそれを「愛の共同体」であるかのごとく偽装工作し続けなければならない人たちによってかろうじて維持されていると先に述べた。「愛」という名の下に専ら打算ぬきのうるわしい関係の実現ばかりが期待されている状況というのは或る社会システムの必要から産出された歴史的構造物と考えた方が現実的なようだ。

森永卓郎の『〈非婚〉のすすめ』(森永 1997 a)はこうした事態をドライに分析している。森永によると日本社会は一種の成功した共産主義だという。そして戦後の日本企業のほとんどが採用してきた終身雇用制というシステムは実は終身結婚制というシステムと連動しているというのである。両者は共に時間軸の忠誠心と空間軸の忠誠心を個人に要求する。サラリーマンは終身雇用制のもとでは同じ会社に勤め続け、他に目を向けてはならない。また現在の結婚システムにおいては一度結婚したら、一生添い遂げることが要求される。配偶者以外の他の相手に目を向けてはならない。

森永によると高度経済成長の最中の1960年代には離婚率が最も低下している事実があ

る。「恋愛資本主義」とはよくぞ言ったものである。そして紛れもなく終身雇用制はあの戦時統制経済システムである1940年体制の継続であるという。「終戦後、1940年体制の経済システムは、本質的な部分をそのまま新しい経済経済体制に引き継いだ。終身雇用制と終身結婚制のセットは、むしろ一層強化されることになった」(森永 1997 b: 57)というのである。戦時動員体制論の中でもこの終身結婚制の問題はまだ十分に議論されていないと思われる。その意味で森永の指摘は新鮮である。

ところで森永がここで意識している1940年体制の継続として日本の戦後社会を視点を提示した野口悠紀雄の議論(野口 1995)は、各分野での規制緩和導入の動きとの絡みもあってかなり広範に経済学者を中心に流布するようになったが、山之内靖らによる戦時動員体制論(山之内 1996 など)では現代を捉えるためのよりスケールの大きいパースペクティブを用意している。というのも戦時体制の継続として戦後の社会を捉える点では野口と共通するが、山之内らは単にアメリカに比較しての日本の遅れや戦前の残存物という次元の問題としてではなく、ファシズム選択の国民国家とニューディール選択の国民国家の双方を貫く問題として戦時動員体制が取り上げているからである。すなわち近代化とは異質なものとしての現代化は山之内らによれば二つの世界大戦を経て形成された世界史レベルでの歴史的な出来事なのである。森永の「恋愛資本主義」に関わる興味深い議論は、山之内靖による戦時動員体制論を受け止めた時、果たしてどのような展開をみせることになるのであろうか。

さて、それはさておき冒頭にて一定の年齢になって結婚しないままとなぜ周囲から咎められるのか、なぜ恋愛と結婚が結びつくことが奨励されるのか、等々はよく考えてみるだけの価値を持っている問いだと述べたが、

その答えを森永の所論の中に我々は見い出すことができる。同性愛などアブノーマルな性愛の形態を安心して差別する多くの人々を必要とするシステムがこの終身結婚制なのである。

ところが、周知のように近年の日本社会は終身雇用制を維持しがたくなっている。これとともに終身結婚制の方も維持しがたくなっているといえよう。こうして現代日本社会においては結婚との結び付きとは別のものとしての自由恋愛の可能性が広がっているかのようにも思われる。ただそうであるとする恋愛市場においても市場経済原理が鋭く働き出し、これまで以上に強い形で「もてへん男」や「もてへん女」の問題が大きく浮上してくることも予想される。とすると終身雇用制と終身結婚制の崩壊に伴って処理性能の優れたルサンチマン処理装置の需要はますます高まってくるということにもなる。

それにしてもあの混浴禁止令から130年にわたって続いてきた近代的な性愛観やエロスに関わる歴史的呪縛は本当に消失しているのだろうか。「援助交際」や美少女ソフトの氾濫という現象の本質を解明するにはマクロな社会システムの変動を捉える必要がある。その意味からしても山之内らの戦時動員体制論の視点から「恋愛資本主義」を捉え直した時、得られるものは大きいように思われる。

以上のような事柄を考慮に入れつつ今回の「現代の学生の恋愛・結婚・家族観についての意識調査」は実施された。ごらんのように残された課題は多い。それらは全て今後託されている。

#### 付記

本論文は、1997年度に本学社会情報学部研究生として在籍した年本逸人と水谷悟志の研究成

果の一つである。また本論文で扱った「現代の学生の恋愛・結婚・家族観についての意識調査」データの集計作業にあたっては、1997年度社会情報学部運営費による助成を得ている。

#### 参考文献

- 赤松啓介(1993)『女の歴史と民俗』【明石書店】  
 フーコー. M 1976=1986 渡辺守章訳『性の歴史I 知への意志』【新潮社】  
 橋爪大三郎(1992)「売春のどこがわるい」江原由美子(編)『フェミニズムの主張』【勁草書房】  
 宝月誠, 中道実, 田中滋, 中野正大(1989)『社会調査』【有斐閣】  
 伊藤悟(1996)『同性愛の基礎知識』【あゆみ出版】  
 森永卓郎(1997a)『〈非婚〉のすすめ』【講談社】  
 森永卓郎(1997b)「恋愛資本主義」上野千鶴子, 河合隼雄(編)『現代日本文化論8 欲望と消費』【岩波書店】  
 西垣通(1996)『聖なるヴァーチャルリアリティ』【岩波書店】  
 野口悠紀雄(1995)『1940年体制論』【東洋経済】  
 杉山和雄, 井上勝雄(編)(1996)『EXCELによる調査分析入門』【海文堂】  
 多木浩二(1996)『ヌード写真』【岩波書店】  
 内田治(1996)『すぐわかる EXCELによる統計解析』【東京図書】  
 氏家幹人(1995)『武士道とエロス』【講談社】  
 上野千鶴子(1998)『発情装置』【筑摩書房】  
 山田昌弘(1994)『結婚の社会学』【丸善】  
 山田昌弘(1996)『現代日本フツターの恋愛』【デイスカヴァー21】  
 山之内靖(1996)「総力戦・国民国家・システム社会」『現代思想』【青土社】24巻6号  
 山之内靖, ヴィクター・コシュマン, 成田龍一(1995)『総力戦と現代化』【柏書房】  
 ヨコタ村上孝之(1997)『性のプロトコル』【新曜社】